

災害支援

市長レポート

～「水源の里」米原市から 「水源の里」相馬市へ～

第2便

4月28日 立谷相馬市長と災害対策本部にて。
掲示板には、共有すべき情報が整然と書き込まれていました。

災害支援の補正予算を編成

今回の震災に関して、市では支援物資購入や職員派遣などの経費を盛り込んだ補正予算を編成し、4月25日の臨時議会で可決いただきました。

これにより、全国市長会議などからの要請に基づく広域的な対応はもちろんのこと、「水源の里」の同志である福島県相馬市に対して直接的な支援を継続してまいります。

相馬市へ第2便が出発

そして、4月27日の夜、支援物資の第2便が相馬市へ向けて出発。今回の支援物資は、先方から要請があった、炊飯器100台と布団100組などです。

また、自らの目で被災地の実情を把握し相馬市長と直接会談するために、今回は私も同行しました。

相馬市長と語る

「企業ボランティアの協力も始まり、支援物資の仕分けもかなりスムーズになってきました」と、語られた相馬市長。

私が訪問したときは、震災から2か月近くが経過していましたが、震災孤児のための基金設立や、

地元企業の協力による仮設住宅の建設など、相馬市は復興に向けて着実なステップを踏まれていることを感じました。

また、地震発生当初から、現段階に至るまでの経過を相馬市長から伺うなかで、特に次の点が印象に残りました。

―地域の防災力の証―

相馬市で津波が襲ったエリアの人口は約5千人。あれほどの大津波ではありましたが、地元の消防団員の懸命な避難誘導により、多くの命が救われたそうです。

有事の際に機動力のある対応を発揮するためにも、コミュニティレベルの防災力の大切さを改めて実感しました。

―徹底した情報共有―

相馬市の災害対策本部では、毎日8時と18時の2回、情報共有のために会議を開いているそうです。また、掲示板には地域ごとの放射線の測定値・生活支援金の交付状況・医療チームの活動状況など、こと細かな情報が常に最新の状態に掲載されていました。

確かな情報をもとに、災害対策本部で決定した方向に向かって、関係者が意思を統一して行動していることがうかがえました。

今後の復興支援

相馬市長は、放射線に対する風評被害で地場産物が売れなくなることを特に心配されていました。

米原市としても、復興支援策のひとつとして、福島の特産品を買う運動をイベントなどと連携して展開できればと考えています。

また、今回の訪問には、社会福祉協議会の田中会長も同行いただきましたが、社協と連携してボランティアの派遣を行います。

これらの活動をおして被災地との絆を深め、息の長い支援を続けていきたいと思っておりますので、市民のみなさんのご理解とご協力をお願いします。

米原市長 泉峰一

(5月10日記)



橘川企画政策部長から、被害状況の説明を受けました。